

# 北電 来年4月値上げ

## 純損益900億円赤字へ

23年3月期予想

北陸電力(富山市)は二十七日、家庭向けの「規制料金」を含むすべての電気料金を来年四月から値上げすると発表した。ロシアのウクライナ侵攻や円安に伴う燃料価格の高騰を受け、料金の抜本的な値上げを決めたのは大手電力十社で初めて。二〇二三年三月期の連結決算は純損益が九百億円の赤字(前期は六十八億円の赤字)と、過去最大となる見通し。

電気料金には、国の認可が必要な規制料金と、電力会社の裁量で設定できる家庭向け、企業向けの「自由料金」がある。北電の規制料金の値上げはオイルショックのあおりを受けた一九八〇年四月以来、四十三年

ぶり。値上げ幅などを今後決め、国に認可を申請する。ウクライナ情勢などに伴い、オーストラリア産の石炭価格は昨年春の約四倍と大幅に上昇。北電は志賀原発の停止が続く中、発電量の約七割を石炭火力発電所

2022年9月中間決算(連結) 単位:百万円		
売上高	経常損益	純損益
374,932 (38.0%)	▲37,700 (-)	▲38,169 (-)
850,000	▲100,000	▲90,000

かっこ内は前年同月比の増減率、▲はマイナス、下段は23年3月期予想

に頼っており、業績が悪化していた。燃料価格の急激な上昇により、大手電力十社すべてで電力料金に上昇分を転嫁できる制度の上限に到達。超過分のコストは自社で負担しており、東北電力や中国電力も値上げの

申請を検討している。

本店で会見した松田光司社長は、二三年三月期は利益面で石炭価格の上昇が約七百億円の押し要因になるとの試算を示し「この状況が続けば、赤字体質から抜けきれない。徹底的な経営の効率化だけでは限界で、非常に心苦しいが、お客さまにコスト負担をお願

いしたい」と語った。同日発表した二三年九月中間連結決算は、純損益が三百八十一億円(前年同期は五十六億円の黒字)と十四年ぶりの赤字。売上高は前年同期比38・0%増の三千七百四十九億円だった。